

ご来場のみなさまへ

本日は「石仏 語らいの家 ー明治・大正・昭和の館ー」にお立ち寄りいただき誠に有り難うございます。

この館では、昭和 25 年（1950）、鉢に嫁いできた私が収集してきた、雪国の暮らしのなかで使われた、さまざまな道具を展示しています。夫と義父が生業とした木挽き職人の道具だけでなく、雪に埋もれた冬場の仕事道具、囲炉裏の周りで営まれた家族の生活に寄り添った衣食住、そして子どもたちの遊びの道具、そして、かつて木挽きの人々の暮らしにおいて重要な役割を果たした「太子講」の際に使われた道具や資料も紹介しています。また、木挽き職人の仕事や、それぞれの民具、村の暮らしなどについて、永年勉強を重ねてきた資料などもご覧いただけるようにしてあります。

展示としてはまだまだ未完成で、見やすい展示とはいえず申し訳ありませんが、ご覧いただき、展示されている道具についての使い方や歴史など、何かご存知の方がいらっしゃいましたら、是非お教え下さい。机の上の整理カードに、資料について、名称や、使い方、時代、その他、ご存知のことをお書きいただき、資料のそばに置いていただければ、とても助かります。みなさまのご協力をいただきながら、今後とも情報を充実させていきたいと考えています。

立派な博物館の展示とは違い、壊れている道具も沢山ありますが、1年の半分の期間、雪に埋もれる豪雪の村にあって、肩を寄せ合って暮らしを守ってきた人々の歴史を伝える証人たちです。

どうぞ、大切にご覧下さい。そして、展示された道具たちをとおして、豪雪の村に暮らす人々の息遣いに触れていただければ、この上ない幸せです。

平成 21 年 8 月

明治・大正・昭和の館
館長 尾身ミノ